

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

Jc846 U.S. PTO
09/766270
01/19/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年 1月25日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-015906

出 願 人

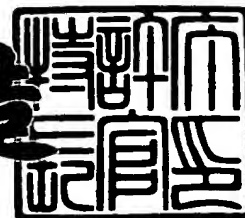
Applicant (s):

コニカ株式会社
株式会社クセロ

2001年 1月 5日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2000-3109303

【書類名】 特許願

【整理番号】 DIJ02195

【提出日】 平成12年 1月25日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 7/00

【発明の名称】 ドキュメントハンドリング方法およびドキュメントハンドリング装置ならびにドキュメントハンドリングプログラムを格納した記録媒体

【請求項の数】 21

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都八王子市石川町2970番地 コニカ株式会社内

 【氏名】 関戸 崇道

【発明者】

 【住所又は居所】 岐阜県大垣市加賀野4丁目1番地7号 ソフトピアジャパンセンター805号室 株式会社クセロ内

 【氏名】 森 真一

【特許出願人】

 【識別番号】 000001270

 【氏名又は名称】 コニカ株式会社

【特許出願人】

 【住所又は居所】 岐阜県大垣市加賀野4丁目1番地7号 ソフトピアジャパンセンター805号室

 【氏名又は名称】 株式会社クセロ

【代理人】

 【識別番号】 100085187

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 井島 藤治

【選任した代理人】

 【識別番号】 100090424

【弁理士】

【氏名又は名称】 鮫島 信重

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 009542

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9004575

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ドキュメントハンドリング方法およびドキュメントハンドリング装置ならびにドキュメントハンドリングプログラムを格納した記録媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリング方法であって、

文書ファイルを複数並べることが可能な一覧画面領域に複数文書ファイルの存在をイメージ化したアイコンもしくはサムネイルを並べて表示し、

前記一覧画面領域に並べられた複数の文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルの中から所定の文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルをパレット画面領域に移入し、移入されたアイコンもしくはサムネイルの文書ファイルの頁分割もしくは束ねを行う、

ことを特徴とするドキュメントハンドリング方法。

【請求項 2】 前記頁分割もしくは束ねが行われた文書ファイルをパレット画面領域から一覧画面領域に戻す、

ことを特徴とする請求項 1 記載のドキュメントハンドリング方法。

【請求項 3】 前記パレット画面領域上で、文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルを用いて出力の指示が可能である、

ことを特徴とする請求項 1 もしくは請求項 2 のいずれかに記載のドキュメントハンドリング方法。

【請求項 4】 前記パレット画面領域上で、文書ファイルの入力の操作が可能である、

ことを特徴とする請求項 1 もしくは請求項 2 のいずれかに記載のドキュメントハンドリング方法。

【請求項 5】 文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリング方法であって、

入力された文書ファイルに基づいて汎用フォーマットの文書ファイルを生成し、

生成された前記汎用フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフ

フォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱い、

文書ファイルを頁分割する際には、汎用フォーマットの文書ファイルを複製し、複製された文書ファイルを頁分割する、
ことを特徴とするドキュメントハンドリング方法。

【請求項 6】 文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリング方法であって、

入力された文書ファイルに基づいて汎用フォーマットの文書ファイルを生成し、

生成された前記汎用フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱う、
ことを特徴とするドキュメントハンドリング方法。

【請求項 7】 文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリング方法であって、

入力された文書ファイルに基づいて P D F フォーマットの文書ファイルを生成し、

生成された前記 P D F フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱う、
ことを特徴とするドキュメントハンドリング方法。

【請求項 8】 文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリング装置であって、

文書ファイルを複数並べることが可能な一覧画面領域と、

前記一覧画面領域に並べられた文書ファイルを移入することが可能であり、移入されたアイコンもしくはサムネイルの文書ファイルの頁分割あるいは束ねの作業が可能なパレット画面領域と、

前記パレット画面領域で文書ファイルの頁分割もしくは束ねを実行する文書ファイル処理手段と、

を備えたことを特徴とするドキュメントハンドリング装置。

【請求項 9】 前記文書ファイル処理手段は、頁分割もしくは束ねが行われた文書ファイルをパレット画面領域から一覧画面領域に戻す、

ことを特徴とする請求項 8 記載のドキュメントハンドリング装置。

【請求項 1 0】 前記パレット画面領域上の文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルを用いて出力の指示が可能である、

ことを特徴とする請求項 8 もしくは請求項 9 のいずれかに記載のドキュメントハンドリング装置。

【請求項 1 1】 前記パレット画面領域上で、文書ファイルの入力の操作が可能である、

ことを特徴とする請求項 8 もしくは請求項 9 のいずれかに記載のドキュメントハンドリング装置。

【請求項 1 2】 文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリング装置であって、

入力された文書ファイルに基づいて汎用フォーマットの文書ファイルを生成する文書ファイル生成手段と、

生成された前記汎用フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱うドキュメントハンドリング手段と、

汎用フォーマットの文書ファイルを複製し、複製された文書ファイルを頁分割する文書ファイル処理手段と、

を備えたことを特徴とするドキュメントハンドリング装置。

【請求項 1 3】 文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリング装置であって、

入力された文書ファイルに基づいて汎用フォーマットの文書ファイルを生成する文書ファイル生成手段と、

生成された前記汎用フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱うドキュメントハンドリング手段と、

を備えたことを特徴とするドキュメントハンドリング装置。

【請求項 1 4】 文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリング装置であって、

入力された文書ファイルに基づいて P D F フォーマットの文書ファイルを生成する文書ファイル生成手段と、

生成された前記 P D F フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱うドキュメントハンドリング手段と、

を備えたことを特徴とするドキュメントハンドリング装置。

【請求項 1 5】 文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリングプログラムを格納した記録媒体であって、

文書ファイルを複数並べることが可能な一覧画面領域に複数文書ファイルを並べて表示するプロセスと、

前記一覧画面領域に並べられた複数の文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルの中から所定の文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルをパレット画面領域に移入し、移入されたアイコンもしくはサムネイルの文書ファイルの頁分割もしくは束ねを行うプロセスと、

を有することを特徴とするドキュメントハンドリングプログラムを格納した記録媒体。

【請求項 1 6】 前記頁分割もしくは束ねが行われた文書ファイルをパレット画面領域から一覧画面領域に戻すプロセスを有する、ことを特徴とする請求項 1 5 記載のドキュメントハンドリング方法。

【請求項 1 7】 前記頁分割もしくは束ねを行うプロセスにおいて、パレット画面領域上で、文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルを用いて出力の指示が可能である、

ことを特徴とする請求項 1 5 もしくは請求項 1 6 のいずれかに記載のドキュメントハンドリングプログラムを格納した記録媒体。

【請求項 1 8】 前記頁分割もしくは束ねを行うプロセスにおいて、前記パレット画面領域上で、文書ファイルの入力の操作が可能である、ことを特徴とする請求項 1 5 もしくは請求項 1 6 のいずれかに記載のドキュメントハンドリングプログラムを格納した記録媒体。

【請求項 1 9】 文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリングプログ

ラムを格納した記録媒体であって、

入力された文書ファイルに基づいて汎用フォーマットの文書ファイルを生成するプロセスと、

生成された前記汎用フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱うプロセスと、

汎用フォーマットの文書ファイルを複製し、複製された文書ファイルを頁分割するプロセスと、

を有することを特徴とするドキュメントハンドリングプログラムを格納した記録媒体。

【請求項 2 0】 文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリングプログラムを格納した記録媒体であって、

入力された文書ファイルに基づいて汎用フォーマットの文書ファイルを生成するプロセスと、

生成された前記汎用フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱うプロセスと、

を有することを特徴とするドキュメントハンドリングプログラムを格納した記録媒体。

【請求項 2 1】 文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリングプログラムを格納した記録媒体であって、

入力された文書ファイルに基づいて P D F フォーマットの文書ファイルを生成するプロセスと、

生成された前記 P D F フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱うプロセスと、

を有することを特徴とするドキュメントハンドリングプログラムを格納した記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明はドキュメントハンドリング（文書ファイル取り扱いの各種操作）に関

し、特に、文書ファイルの頁分割（頁毎のぼらし）や束ね（文書ファイルや頁の束ね）を効率良く行うことが可能な方法および装置ならびにプログラムの改良に関する。

【0002】

【従来の技術】

ドキュメントハンドリングソフトウェア（以下、ハンドリングソフトと称する）として、文書ファイルを管理するだけではなく、その文書ファイルの頁分割（頁毎のぼらし）や束ね（文書ファイルや頁の束ね）といった各種の操作を行うことが可能なソフトウェアが知られている。

【0003】

この種の従来のハンドリングソフトで文書ファイルの頁分割あるいは束ねを実行する場合、複数頁の文書ファイルを複数並べることが可能な一覧画面領域で頁分割や束ねといった作業をするようにしていた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

すなわち、従来のハンドリングソフトで文書ファイルの頁分割あるいは束ねを実行する場合、複数頁の文書ファイルを複数並べることが可能な一覧画面領域で頁分割や束ねといった作業をしていたため、頁分割や束ねに直接関係する文書ファイルと、頁分割や束ねに直接関係しない他の文書ファイルとが同一画面で混在することになり、作業性が極めてわるい状態になっていた。

【0005】

なお、従来から存在するハンドリングソフトでは、登録された文書ファイルに関して、ハンドリングソフト独自のフォーマットを有するものがある。そして、元の文書ファイルから前記独自のフォーマットの文書ファイルを生成し、この独自のフォーマットの文書ファイルを基準にして文書ファイルの管理・取り扱を行うようにしている。

【0006】

このような理由で、ハンドリングソフトで取り扱われた文書ファイルのデータが存在する場合に、ハンドリングソフトが存在しなければ、取り扱った結果の文

書ファイルの様子を確認することができない。したがって、ハンドリングソフトで取り扱った文書ファイルを第三者に渡す場合、ハンドリングソフト自体も一緒に渡さなければならない。

【 0 0 0 7 】

また、独自フォーマットの文書ファイルと元のフォーマットの文書ファイルとは初期状態では関連づけられた状態にある。しかし、ハンドリングソフトで独自フォーマットの文書ファイルを頁分割してしまった場合には、独自フォーマットの文書ファイルの頁分割された先頭頁と元のフォーマットの文書ファイルとの関連は保たれるものの、頁分割された 2 頁以降のファイルと元のフォーマットの文書ファイルとは関連がとぎれてしまう状態になる。この結果、頁分割したものを元の状態に戻したり束ねたりといった作業が簡単には実行できない状態になる。

【 0 0 0 8 】

本発明は上述の課題を解決するためになされたものであって、本発明の第 1 の目的は、作業性が優れた状態で文書ファイルを頁分割するあるいは束ねることを可能にすることである。

【 0 0 0 9 】

また、本発明の第 2 の目的は、文書ファイルを頁分割した場合でも、元のフォーマットの文書ファイルとの関連が保たれ、元の文書ファイルに影響を与えることがないようにすることである。

【 0 0 1 0 】

また、第 3 の目的は、ハンドリングソフトが存在しない環境であっても、取り扱った結果の文書ファイルの様子を確認することが可能にすることである。

【 0 0 1 1 】

【課題を解決するための手段】

以上の課題を解決する本発明は以下に述べるものである。

【 0 0 1 2 】

(1) 請求項 1 記載のドキュメントハンドリング方法の発明は、文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリング方法であって、文書ファイルを複数並べることが可能な一覧画面領域に複数文書ファイルの存在をイメージ化したアイコン

もしくはサムネイルを並べて表示し、前記一覧画面領域に並べられた複数の文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルの中から所定の文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルをパレット画面領域に移入し、移入されたアイコンもしくはサムネイルの文書ファイルの頁分割もしくは束ねを行う、ことを特徴とする。

【0013】

また、請求項8記載のドキュメントハンドリング装置の発明は、文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリング装置であって、文書ファイルを複数並べることが可能な一覧画面領域と、前記一覧画面領域に並べられた文書ファイルに移入することが可能であり、移入されたアイコンもしくはサムネイルの文書ファイルの頁分割あるいは束ねの作業が可能なパレット画面領域と、前記パレット画面領域で文書ファイルの頁分割もしくは束ねを実行する文書ファイル処理手段と、を備えたことを特徴とする。

【0014】

また、請求項15記載のドキュメントハンドリングプログラムを格納した記録媒体の発明は、文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリングプログラムを格納した記録媒体であって、文書ファイルを複数並べることが可能な一覧画面領域に複数文書ファイルを並べて表示するプロセスと、前記一覧画面領域に並べられた複数の文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルの中から所定の文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルをパレット画面領域に移入し、移入されたアイコンもしくはサムネイルの文書ファイルの頁分割もしくは束ねを行うプロセスと、を有することを特徴とする。

【0015】

これらの発明では、複数頁の文書ファイルを複数並べることが可能な一覧画面領域に複数文書ファイルの存在をイメージ化したアイコンもしくはサムネイルを並べて表示し、これら一覧画面領域に並べられた複数の文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルの中から所定の文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルをパレット画面領域に移入し、移入されたアイコンもしくはサムネイルの文書ファイルの頁分割もしくは束ねを行うようにしている。

【0016】

この結果、頁分割や束ねに関係しない他の文書ファイルが存在する一覧画面領域で頁分割や束ねといった作業をする必要がなくなり、関連する文書ファイルだけが存在するパレット画面領域で作業性が優れた状態で所望の文書ファイルの頁分割あるいは束ねを実行することが可能になる。

【 0 0 1 7 】

なお、この発明において、頁分割や束ねといった取り扱いが完了した場合には、前記頁分割もしくは束ねが行われた文書ファイルをパレット画面領域から一覧画面領域に戻すことが望ましい。

【 0 0 1 8 】

また、この発明において、前記パレット画面領域上で、文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルを用いて出力の指示が可能であることが望ましい。

【 0 0 1 9 】

また、この発明において、前記パレット画面領域上で、文書ファイルの入力の操作が可能であることが望ましい。

【 0 0 2 0 】

(2) 請求項 5 記載のドキュメントハンドリング方法の発明は、文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリング方法であって、入力された文書ファイルに基づいて汎用フォーマットの文書ファイルを生成し、生成された前記汎用フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱い、文書ファイルを頁分割する際には、汎用フォーマットの文書ファイルを複製し、複製された文書ファイルを頁分割する、ことを特徴とする。

【 0 0 2 1 】

また、請求項 1 2 記載のドキュメントハンドリング装置の発明は、文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリング装置であって、入力された文書ファイルに基づいて汎用フォーマットの文書ファイルを生成する文書ファイル生成手段と、生成された前記汎用フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱うドキュメントハンドリング手段と、汎用フォーマットの文書ファイルを複製し、複製された文書ファイルを頁

分割する文書ファイル処理手段と、を備えたことを特徴とする。

【0022】

また、請求項19記載のドキュメントハンドリングプログラムを格納した記録媒体の発明は、文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリングプログラムを格納した記録媒体であって、入力された文書ファイルに基づいて汎用フォーマットの文書ファイルを生成するプロセスと、生成された前記汎用フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱うプロセスと、汎用フォーマットの文書ファイルを複製し、複製された文書ファイルを行分割するプロセスと、を有することを特徴とする。

【0023】

これらの発明では、入力された文書ファイルに基づいて汎用フォーマットの文書ファイルを生成し、生成された前記汎用フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱い、文書ファイルを行分割する際には、汎用フォーマットの文書ファイルを複製し、複製された文書ファイルを行分割するようにしている。

【0024】

この結果、文書ファイルを行分割した場合でも、汎用フォーマットの文書ファイルと元のフォーマットの文書ファイルとの関連が保たれ、元の文書ファイルに影響を与えることがない。このため、整合性が保たれた状態になっている。

【0025】

(3) 請求項6記載のドキュメントハンドリング方法の発明は、文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリング方法であって、入力された文書ファイルに基づいて汎用フォーマットの文書ファイルを生成し、生成された前記汎用フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱う、ことを特徴とする。

【0026】

また、請求項13記載のドキュメントハンドリング装置の発明は、文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリング装置であって、入力された文書ファイルに基づいて汎用フォーマットの文書ファイルを生成する文書ファイル生成手段と

、生成された前記汎用フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱うドキュメントハンドリング手段と、を備えたことを特徴とする。

【 0 0 2 7 】

また、請求項 2 0 記載のドキュメントハンドリングプログラムを格納した記録媒体の発明は、文書ファイルを取り扱うドキュメントハンドリングプログラムを格納した記録媒体であって、入力された文書ファイルに基づいて汎用フォーマットの文書ファイルを生成するプロセスと、生成された前記汎用フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱うプロセスと、を有することを特徴とする。

【 0 0 2 8 】

これらの発明では、入力された文書ファイルに基づいて汎用フォーマットの文書ファイルを生成し、生成された前記汎用フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱うようにしている。

【 0 0 2 9 】

ここで、汎用フォーマットの文書ファイルとは、パソコン環境や、プリンタの機種などに依存せずに、画面表示や印刷で一定のレイアウトを保つことが可能にされており、閲覧ソフトの入手が容易なものを言う。なお、閲覧ソフトが無料で容易に入手できれば、さらに望ましい。たとえば、アドビシステムズ社が提唱している P D F (Portable Document Format) と呼ばれるドキュメントファイル形式の文書ファイルなどを意味する。

【 0 0 3 0 】

また、ここで、文書ファイルを関連づけて取り扱うとは、拡張子以外のファイル名が一致するものを関連ありとして扱うことや、それぞれの文書ファイルの存在場所を管理する（たとえば、同一のフォルダあるいはディレクトリ内に格納する）ことなどをいう。

【 0 0 3 1 】

この結果、文書ファイルを扱ったハンドリングソフトが存在しない（インスト

ールされていない) 環境であっても、取り扱った結果の文書ファイルの様子を、汎用フォーマットの文書ファイルを閲覧することが可能な閲覧ソフト (PDFファイルの場合には、アドビシステムズ社のアクトバトリーダー (商品名)) を入手することによって確認できるようになる。

【0032】

【発明の実施の形態】

図1は本発明の実施の形態のドキュメントハンドリング装置とその周辺の接続例を示すブロック図である。なお、この図1は本実施の形態例の動作説明に必要な機能を中心に記載しているため、細部の詳細なハードウェア構成は省略してある。

【0033】

この図1において、100は、LAN、インターネット、イントラネットなどの各種ネットワーク、200は画像や文書の入力を行う読取装置としてのスキャナ、300は本実施の形態例の特徴部分を構成するドキュメントハンドリング装置として動作するコンピュータ (PC) である。なお、このPC300は一般的なコンピュータであって、ドキュメントハンドリングプログラムが動作しているものを意味している。400は画像や文書のハードコピーを出力する装置としてのプリンタである。

【0034】

ここで、スキャナ200とプリンタ400とを一体化した複合機 (画像形成装置、スキャナなど) も存在しており、これらを用いることも可能である。

【0035】

図2はドキュメントハンドリングプログラムが動作している際の一覧画面領域の表示例 (図2 (a)) と、ドキュメントハンドリングプログラムが動作している際の一覧画面領域の上に開かれたパレット画面領域の表示例 (図2 (b)) とを示している。

【0036】

一覧画面領域は文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルを複数並べることが可能な領域であり、図2 (a) では8個の複数頁の文書ファイルのアイコンも

しくはサムネイルが並べられて、取り扱い可能な状態にされている。

【 0 0 3 7 】

パレット画面領域は前記一覧画面領域に並べられた文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルをドラッグ&ドロップ等の操作によって移入することが可能であり、移入されたアイコンもしくはサムネイルの文書ファイルの頁分割あるいは束ねの作業が可能である。この図 2 (b) では一覧画面領域から 1 個の文書ファイルがパレット画面領域に移入された状態を示している。このパレット画面領域は、一覧画面領域からポップアップする別画面である。

【 0 0 3 8 】

ここで、文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルは、文書ファイルの存在をイメージにより表示するものであり、通常の一般的なアイコンでもよいが、サムネイルであることが好ましい。すなわち、一覧画面領域やパレット画面領域では、文書ファイルの存在をイメージ化したアイコンもしくはサムネイルの表示により示すように構成されている。

【 0 0 3 9 】

なお、本実施の形態例では、文書ファイルを取り扱う際に、入力された文書ファイルに基づいて汎用フォーマットの文書ファイルを生成し、生成された前記汎用フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱う、ことを特徴としている。

【 0 0 4 0 】

ここで、汎用フォーマットの文書ファイルとは、パソコン環境や、プリンタの機種などに依存せずに、画面表示や印刷で一定のレイアウトを保つことが可能にされており、閲覧ソフトの入手が容易なものを言う。たとえば、アドビシステムズ社が提唱している P D F (Portable Document Format) と呼ばれるドキュメントファイル形式の文書ファイルなどを意味する。

【 0 0 4 1 】

したがって、この明細書では、各種ワードプロセッサなどによる独自のフォーマット形式の文書ファイルを単に文書ファイルと呼ぶ。なお、T I F F や B M P 形式のイメージファイルをも、文書ファイルとして扱う。

【0042】

また、文書ファイルから生成される汎用フォーマット形式の文書ファイルの一例として、PDFファイルの場合を例に用いて説明を行うことにするが、このPDFファイルに限定されるものではない。

【0043】

まず、ドキュメントハンドリングプログラムにおいて、一覧画面領域に所望の文書ファイルを登録する（図3S1）。なお、既にドキュメントハンドリングプログラムに登録されている文書ファイルが存在していれば、一覧画面領域に文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルが表示される。

【0044】

ドキュメントハンドリングプログラムに新たな文書ファイルが登録されると、その文書ファイルに基づいてドキュメントハンドリングプログラムの汎用フォーマット形式文書ファイル生成手段（あるいは、アドビシステムズ社のアクロバット（商品名））がPDFファイルを生成する（図2S2）。

【0045】

そして、ドキュメントハンドリングプログラムのドキュメントハンドリング手段が、入力された元のフォーマットの文書ファイルと汎用フォーマットの文書ファイル（ここではPDFファイル）とを関連づけた状態で所定のフォルダ（ディレクトリ）に格納する。

【0046】

この関連付けとしては、ドキュメントハンドリングプログラムが、ファイル名の拡張子以外の部分の一致を検出し、一致したファイル同士を互いに関連あるものとして扱う、といった手法が考えられる。

【0047】

また、これ以外に、新たな文書ファイルが登録される毎に新たなフォルダが作成して、入力された元のフォーマットの文書ファイルと汎用フォーマットの文書ファイルとを同一のフォルダに格納することで、ドキュメントハンドリングプログラムは、それぞれを関連づけた状態で取り扱うようにしてもよい。

【0048】

なお、ここで、ファイル名による管理や、同一のフォルダあるいはディレクトリ内に格納する以外にも、それぞれの文書ファイルの存在場所を管理することで、文書ファイルに関連づけて取り扱うことも可能である。

【0049】

また、本実施の形態例では、文書ファイルを複数並べることが可能な一覧画面領域に複数文書ファイルの存在をイメージ化したアイコンもしくはサムネイルを並べて表示し（図2（a））、前記一覧画面領域に並べられた複数の文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルの中から所定の文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルをパレット画面領域に移入し（図2（b））、移入されたアイコンもしくはサムネイルの文書ファイルの頁分割もしくは束ねを行うことを特徴としている。

【0050】

上述した文書ファイル登録によりドキュメントハンドリングプログラムが取り扱うことになっている文書ファイルの一覧が、図2（a）の一覧画面領域に表示されている。ここでは、8個の文書ファイルが取り扱い可能な状態になっている。

【0051】

まず、一覧画面領域に並べられた文書ファイルのアイコン若しくはサムネイルの中から所望のものをドラッグ&ドロップ等の操作によってパレット画面領域に移入する（図2（b））。この図2（b）では1個の文書ファイルのみをパレット画面領域に移入したが、複数の文書ファイルを移入することも可能である。

【0052】

そして、パレット画面領域に移入されたアイコンもしくはサムネイルの文書ファイルに関し、操作者の指示に応じて処理プログラムは、頁分割あるいは束ねの作業を実行する。たとえば、図4（a）のようにパレット画面領域に存在する文書ファイルを頁分割することで、図4（b）のように1頁毎のページファイルとすることができる。ここでは、文書ファイルが全8頁であった場合を例示している。

【0053】

また、この図4（b）のページファイルのうちの所望のもののアイコンもしくはサムネイルを指定して束ねることで、文書ファイルを束ねることもできる。なお、複数の文書ファイルを頁分割してそれぞれページファイルとして、それらのページファイルの中から所望のものを束ねて文書ファイルを束ねることも可能である。

【0054】

なお、ここでは頁分割と束ねとの取り扱いの例を示したが、それ以外に、文書ファイルやページファイルの回転などの処理を実行することも可能である。この場合も、アイコンもしくはサムネイルに与えられた指示に基づいて、処理プログラムが実際の文書ファイルやページファイルに対して処理を実行する。

【0055】

また、このパレット画面領域上で、スキャナ200やPC300の磁気ディスク内の任意のフォルダからの文書ファイルの入力（登録）、FAX受信による入力、メール受信による入力などの操作を可能にしておくことも望ましい。その場合には、図3に示した手順で文書ファイルの登録を行う。

【0056】

また、このパレット画面領域上で、文書ファイルまたはページファイルのアイコンもしくはサムネイルを指定して、プリンタ400からのプリント出力や、図示していないFAX送信、メール送信することも可能である。

【0057】

なお、このパレット画面領域における頁分割や束ねといった取り扱いが完了した場合には、前記頁分割もしくは束ねが行われた文書ファイルやページファイルを、ドラッグ&ドロップの操作によってパレット画面領域から一覧画面領域に戻しておく。

【0058】

以上のように、一覧画面領域に並べられた複数の文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルの中から所定の文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルをパレット画面領域に移入し、移入されたアイコンもしくはサムネイルの文書ファイルの頁分割もしくは束ねを行うようにしたことで、頁分割や束ねに関係しない他

の文書ファイルが存在する一覧画面領域で頁分割や束ねといった作業をする必要がなくなり、関連する文書ファイルだけが存在するパレット画面領域で作業性が優れた状態で所望の文書ファイルの頁分割あるいは束ねといった作業を実行することが可能になる。

【 0 0 5 9 】

なお、以上のような文書ファイルの取り扱い（頁分割や束ねといったドキュメントハンドリング）により得られた出力ファイル（元のフォーマットの文書ファイルとPDFファイルとの対）を、文書ファイルを扱ったハンドリングソフトが存在しない（インストールされていない）環境のコンピュータで読み取ろうとした場合、汎用フォーマットの文書ファイルを閲覧することが可能な閲覧ソフト（PDFファイルの場合には、アドビシステムズ社のアクロバットリーダー（商品名））を入手することによって確認できるようになる。このため、ハンドリングソフト（ドキュメントハンドリングプログラム）独自のフォーマットを利用していた従来のものに比べて、より汎用性が向上する。

【 0 0 6 0 】

なお、本実施の形態例では、以上説明した文書ファイルの頁分割の際には、汎用フォーマットの文書ファイル（PDFファイル）を複製し、複製された文書ファイル（頁分割用PDFファイル）を頁分割することを特徴としている。

【 0 0 6 1 】

すなわち、既に説明したように、ドキュメントハンドリングプログラムのドキュメントハンドリング手段が、入力された元のフォーマットの文書ファイルと汎用フォーマットの文書ファイル（ここではPDFファイル）とを関連づけて所定のフォルダ（ディレクトリ）に格納する。そして、操作者によって頁分割の指示があった場合、ドキュメントハンドリングプログラムの文書ファイル処理手段がPDFファイルを複製して頁分割用PDFファイルを生成する。なお、元のフォーマットの文書ファイルと対になって格納されているPDFファイルは何ら修正を加えずそのままの状態にしておく。そして、ドキュメントハンドリングプログラムの文書ファイル処理手段が、複製して生成した頁分割用PDFファイルをページファイルに頁分割する。

【 0 0 6 2 】

この結果、文書ファイルを頁分割してした場合でも、汎用フォーマットの文書ファイルと元のフォーマットの文書ファイルとの関連は保たれており、元の文書ファイルに何ら影響を与えることがなく、整合性が保たれた状態になっている。また、一旦頁分割した状態をキャンセルする場合でも、頁分割したものを瞬時に元の状態に戻すことが可能になる。

【 0 0 6 3 】

【発明の効果】

(1) 第1の発明では、複数頁の文書ファイルを複数並べることが可能な一覧画面領域に複数文書ファイルの存在をイメージ化したアイコンもしくはサムネイルを並べて表示し、これら一覧画面領域に並べられた複数の文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルの中から所定の文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルをパレット画面領域に移入し、移入されたアイコンもしくはサムネイルの文書ファイルの頁分割もしくは束ねを行うようにしているため、頁分割や束ねに関係しない他の文書ファイルが存在する一覧画面領域で頁分割や束ねといった作業をする必要がなくなり、関連する文書ファイルだけが存在するパレット画面領域で作業性が優れた状態で所望の文書ファイルの頁分割あるいは束ねを実行することが可能になる。

【 0 0 6 4 】

(2) 第2の発明では、入力された文書ファイルに基づいて汎用フォーマットの文書ファイルを生成し、生成された前記汎用フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱い、文書ファイルを頁分割する際には、汎用フォーマットの文書ファイルを複製し、複製された文書ファイルを頁分割するようにしているため、文書ファイルを頁分割した場合でも、汎用フォーマットの文書ファイルと元のフォーマットの文書ファイルとの関連が保たれ、元の文書ファイルに影響を与えることがない。これにより、頁分割したものを元の状態に戻したり束ねたりといった作業が簡単に実行できるようになる。

【 0 0 6 5 】

(3) 第3の発明では、入力された文書ファイルに基づいて汎用フォーマットの文書ファイルを生成し、生成された前記汎用フォーマットの文書ファイルと、前記入力されたままのフォーマットの文書ファイルとを関連づけて取り扱うようにしているため、文書ファイルを扱ったハンドリングソフトが存在しない環境であっても、取り扱った結果の文書ファイルの様子を、汎用フォーマットの文書ファイルを開覧することが可能な閲覧ソフトを入手することによって確認できるようになる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の実施の形態における装置接続構成を示すブロック図である。

【図2】

本発明の実施の形態例による画面表示例を模式的に示す説明図である。

【図3】

本発明の実施の形態例の動作状態を示すフローチャートである。

【図4】

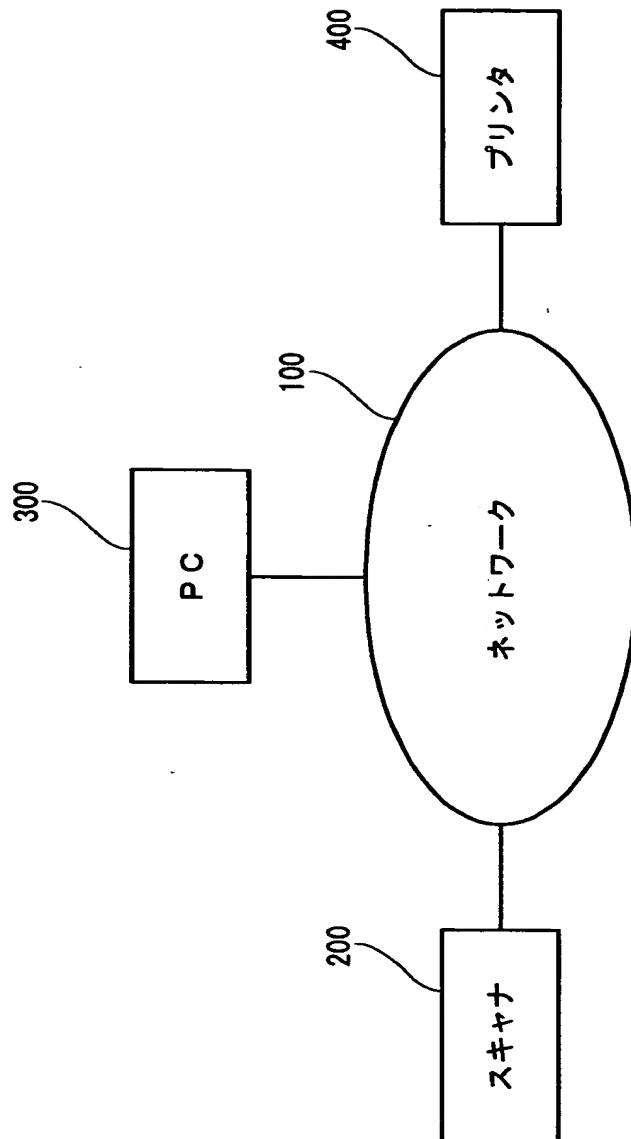
本発明の実施の形態例による画面表示例を模式的に示す説明図である。

【符号の説明】

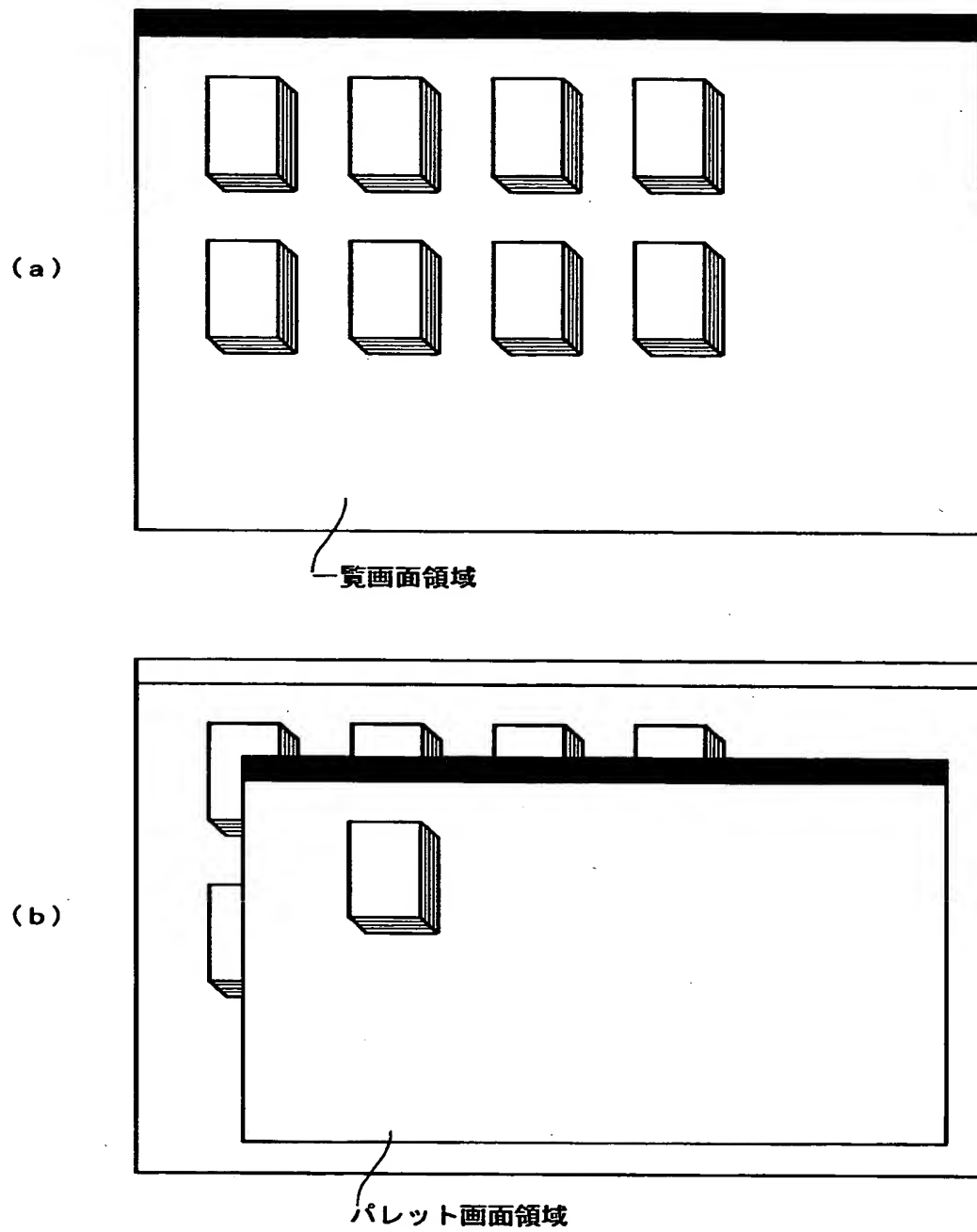
- 100 ネットワーク
- 200 スキャナ
- 300 PC
- 400 プリンタ

【書類名】 図面

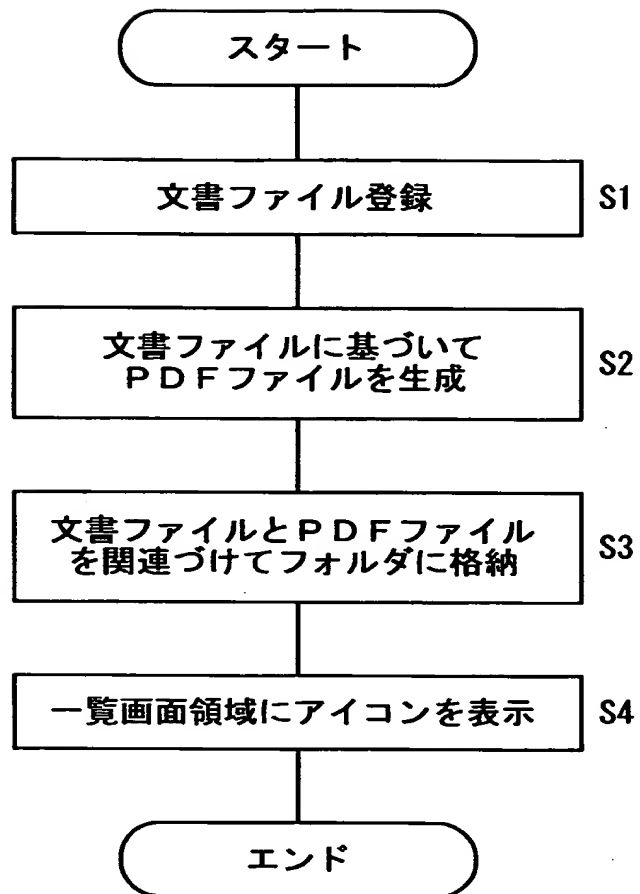
【図 1】



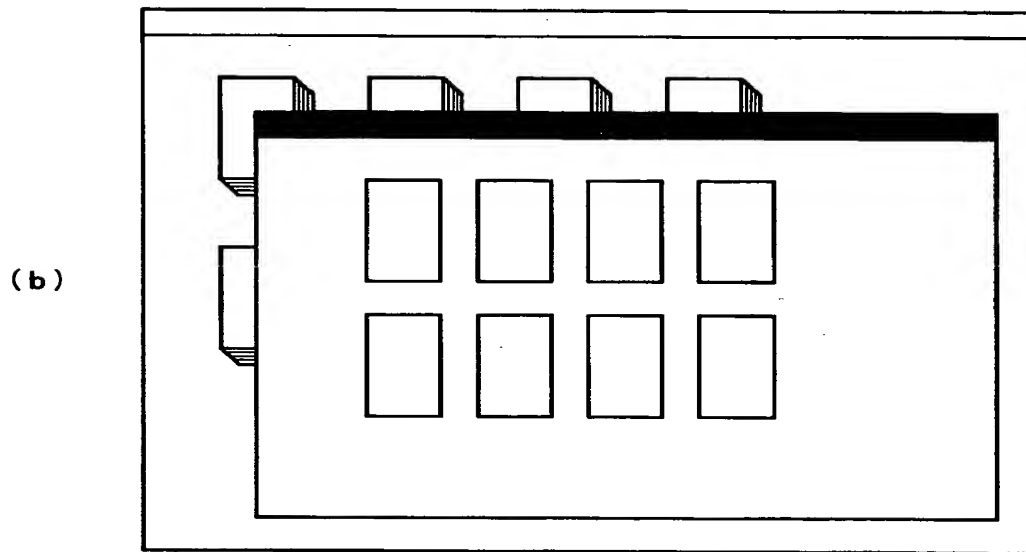
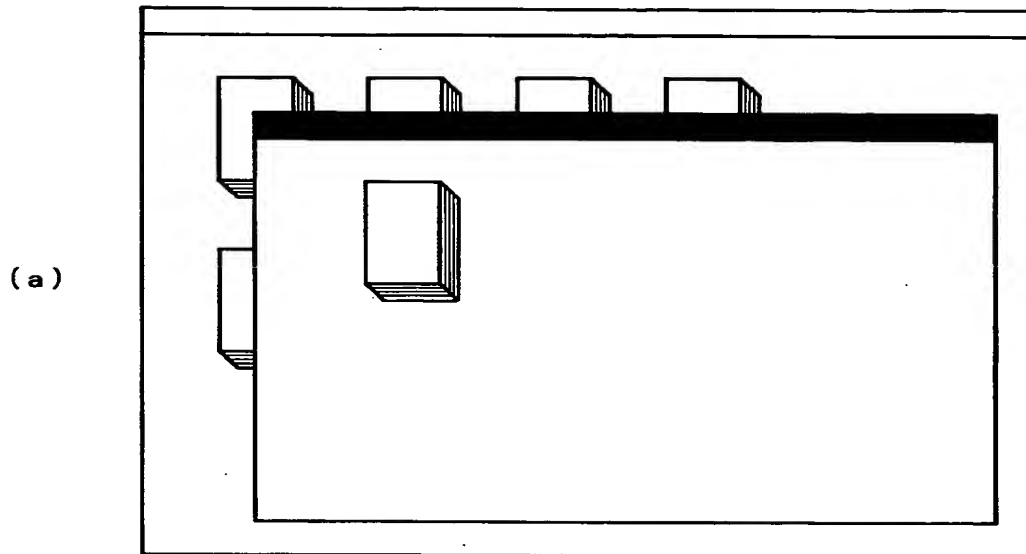
【図2】



【図 3】



【図4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 作業性が優れた状態で文書ファイルを頁分割するあるいは束ねることを可能にする。

【解決手段】 複数頁の文書ファイルを複数並べることが可能な一覧画面領域に複数文書ファイルの存在をイメージ化したアイコンもしくはサムネイルを並べて表示し（a）、前記一覧画面領域に並べられた複数の文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルの中から所定の文書ファイルのアイコンもしくはサムネイルをパレット画面領域に移入し（b）、移入されたアイコンもしくはサムネイルの文書ファイルの頁分割もしくは束ねを行う、ことを特徴とする。

【選択図】 図 2

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2000-015906
受付番号	50000072026
書類名	特許願
担当官	坪 政光 8844
作成日	平成12年 2月 3日

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】	000001270
【住所又は居所】	東京都新宿区西新宿1丁目26番2号
【氏名又は名称】	コニカ株式会社

【特許出願人】

【識別番号】	399119686
【住所又は居所】	岐阜県大垣市加賀野4-1-7 ソフトピアジャ パンセンター805
【氏名又は名称】	株式会社クセロ

【代理人】

申請人

【識別番号】	100085187
【住所又は居所】	東京都日野市多摩平2丁目3番1号 ラ・ポルト ビル3階 井島・鮫島特許事務所
【氏名又は名称】	井島 藤治

【選任した代理人】

【識別番号】	100090424
【住所又は居所】	東京都日野市多摩平2丁目3番1号 ラ・ポルト ビル3階 井島・鮫島特許事務所
【氏名又は名称】	鮫島 信重

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001270]

1. 変更年月日 1990年 8月14日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都新宿区西新宿1丁目26番2号
氏 名 コニカ株式会社

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [3 9 9 1 1 9 6 8 6]

1. 変更年月日 1 9 9 9 年 1 0 月 2 6 日

[変更理由] 新規登録

住 所 岐阜県大垣市加賀野 4 - 1 - 7 ソフトピアジャパンセンター
8 0 5

氏 名 株式会社クセロ